

会 議 録

会議の名称	令和7年度第1回さど未来創造・戦略推進会議
開催日時	令和7年9月4日(木) 14時00分から15時40分
場所	佐渡市役所本庁第1庁舎 2階 大会議室(Zoom 併用)
次 第	1. 開会 2. 座長選任 3. 議題 (1) 令和6年度デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)の効果検証について (2) 令和6年度物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の効果検証について 4. 閉会
会議の公開・非公開 (非公開とした場合は、その理由)	公開
出席者	学識有識者ほか 15 名 (事務局) 企画部総合政策課 部長 北見 太志 企画部総合政策課 課長 金子 裕介 企画部総合政策課 課長補佐 市橋 圭介 企画部総合政策課 政策推進係 調査員 伊豆野 裕一 企画部総合政策課 政策推進係 主事 和田 浩樹
会議資料	資料1: 令和6年度デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)効果検証 資料2: 令和6年度デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)に係る事業実施結果報告 資料3: 令和6年度物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金 効果検証 資料4: 令和6年度物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金 実績一覧 資料5: 令和5年度(令和6年度への繰越分)物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金 実績一覧
傍聴人の数	0名
備考	—

会議の概要(発言の要旨)

1.開会	
発言者	議題・発言・結果等
総合政策課 和田主事	○座長選任までの間、事務局で進行することを説明

企画部 北見部長	<p>○本会議については、佐渡市総合計画やその他諸計画の一体的な推進にあたり、広く有識者・市民の皆様からご意見・ご指導をいただく場として開催している。今年度は2回の開催を予定しているうちの今日は第1回目の開催。</p> <p>○本会議の両交付金はその実施状況とその効果について公表することとされており、皆様からご意見をいただいたのちに、公表する。忌憚のないご意見をいただきたい。</p> <p>○第2回目の会議については、12月上旬頃の開催を予定しており、総合計画の効果検証をはじめ、来年度に予定されている総合計画の改訂スケジュールも併せてお示しさせていただく。</p>
総合政策課 和田主事	<p>○事務局の出席者を紹介</p> <p>○初めての出席者を紹介</p>
2.座長選任	
発言者	議題・発言・結果等
総合政策課 和田主事	○座長の選任について説明。 立候補・推薦がなかったため、事務局案を提案し、出席者より承認。
3.議題(1)	
発言者	議題・発言・結果等
座長	○次第3. 議題(1)について事務局から説明を求める
総合政策課 和田主事	○資料1～2を用いて説明
座長	○事務局の説明について、まず、「日本一輝けるスタートアップアイランド」の意見・質問を求める。
A 氏	○UI ターン者数の目標値は、どのような根拠から設定しているか。 目標値が高過ぎると、どうしても未達成という結果になってしまうと思われるが、これが高すぎる目標なのか、課題があって未達成なのかで深刻に受け止めるべき評価が変わってくる。
総合政策課 金子課長	<p>○ここ数年の移住者数の推移として、コロナ以降、令和2年度に504人と初めて500人に達し、令和4年度には600人という最高値であった。 本計画作成の際は、令和3年度から議論を始めたため、令和2年度に500人を達成したことから、次は600人という発想から、この目標値になったと思われる。</p> <p>○来年度の総合計画策定に併せて、2060年までを見定めた佐渡市の人口ビジョンを策定するが、佐渡市としては今後 35,000 人の人口を維持していきたいと市長も対外的に発言しているところ。今後、なかなか出生数が伸びない中で移住者をどれだけ確保していく必要があるかという観点では、移住者数の目標値根拠は改めて見直しをしなければならないことを庁内でも議論している。来年度の総合計画策定に合わせて検討していくため、ご意見等があればお願いしたい。</p>
B 氏	○移住者数の下落は、基本的には雇用機会拡充事業補助金の採択数を絞り込んでいったところが非常に大きいウエイトを占めていると思われる、そもそも移住者数はデジタル田園都市国家構想交付金事業

	<p>のみで達成すべき数字ではない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市の財政等を加味するといつまでも全力疾走できない中で、令和4年度に最大限の力を発揮して企業誘致をかけた。企業誘致された企業は佐渡で雇用を行うが、島の若者が少ないため奪い合いのような状態となり、各企業が島外から佐渡で働く人を呼び込むためにすさまじいPRをかけた結果も含めて、移住者数600人を達成したもの。すでに雇用機会拡充事業は採択数をかなり絞り込んでいるため、今後、超えられない最大の移住者数だと思っている。 ○当初40社いくまでも相当な速度で誘致し、その後、59社くらいまで誘致したが、そこからここ3年間ぐらいはゆっくりな速度での誘致になっている。ここからは持続可能な計画に変えていくべきで、その際、誘致する企業、業種、UIターン者の属性にもう少し注目していくべき。 ○今までは企業誘致の波及効果で移住者数が増えたが、これは仕事が増加したことで働くために転入した人たちであり、転入者も増えるが、島外への転職によって再転出者も増える状況であった。 ○これはしょうがないことで、今後は全力疾走できないものになってきた以上、もう少し島に魅力を感じてくれる人たちだけにフォーカスして、集中投資していく形をとっていくべきと考えている。個人的には UI ターンインフォメーションセンターが行っていた「佐渡部」等の地道な移住促進活動を少しずつ復活させていただきたい。
<p>総合政策課 金子課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○B氏おっしゃるとおり、最近の雇用機会拡充事業は質を高め、より佐渡に定着し、雇用を確実に生んでいただける企業に絞り、全体の採択数を絞ってきている状況。 ○Iターン者の定着率が厳しいという移住交流推進課の分析があるが、佐渡に来て、よさを知り、住んでいただく中で今後、二地域居住という選択肢があるのかもしれない。来年度に向けて二地域居住の推進としてモデル事業を今年度実施しているが、佐渡を選択して、住んでいただくという仕組みづくりに注力していくべきだろうと、今のお話を伺いながら感じたところ。
<p>C 氏</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○令和4年度から令和6年度までの3年間で、UI ターンインフォメーションセンターの事業内容の大きな変更があり、具体的には令和6年度から名称が UI ターンサポートセンターから UI ターンインフォメーションセンターに変更するとともに、市からの委託内容が移住相談窓口対応から移住者の定着支援に内容が変更された。したがって、現在、どういうニーズがあって佐渡へ移住される方がいるかを把握できない状況。 ○移住交流推進課と月2回の頻度で情報交換やこれからの予定も含めた打合せを行っているが、市が両津港へ移住相談場所を移設したことによりあまり相談件数が増えていないようであるため、検証が必要。 ○移住者が求める内容も大きく変わっていると思われ、雇用機会拡充事業等の仕事関連の転入者もいるが、「給料が低いから佐渡を出ようと思う」などの話は定着支援をしてからよく聞くようになった。IT系の方々が佐渡で就職後、スキルを取得してもっといい職場に挑戦したいという方が結構いらっしゃるため、3年間佐渡で修行するようなイメージの方も以前に比べて増えたのかもしれない。

	<p>○また、離島留学制度を活用し、佐渡での子育てを望む方もいる一方で、子育て世代の方の中にはいざ子どもを産むとなると、佐渡よりもよい子育て環境の場所を望む声もある。</p>
D氏	<p>○令和6年度政策方針イメージ中の「子どもを産み育てやすい島」の項目が、デジタル田園都市国家構想交付金で実施した4事業に含まれていないのはなぜか。</p>
総合政策課 和田主事	<p>○主に子ども若者課や健康医療対策課の事業が当該項目に当てはまるが、当該項目の事業はデジタル田園都市国家構想交付金ではなく、こども家庭庁や厚生労働省等が所管する交付金、補助金を活用しているため、デジタル田園都市国家構想交付金には含まれていない。</p>
E氏	<p>○佐渡総合高校で起業家・即戦力人材を育てる部活動を創設したとのことだが、具体的にどんな状況か把握しているか。</p>
総合政策課 和田主事	<p>○令和6年度に元々あったコンピューター部を刷新し、起業家・即戦力人材を育てる部活動を新たに創部した。 創部段階で36名の部員がおり、島内IT企業が講師として起業や経営、プログラミング技術等を教えている。</p>
F氏	<p>○佐渡市だけではなく、日本全国で人材不足の問題が起きており、各人材の獲得競争が激しくなっている。いい就職先と思われる北海道大学でも、求人募集をしても全く応募がなく困っていると聞いて驚いた。そういった状況の中、UIターン専用の転職サイトに情報を出したところ、応募が集まったとのこと。 ○UIターンインフォメーションセンターはどのような仕組みになっているのか。また、民間の転職サイトを使う可能性はあるのか。</p>
C氏	<p>○UIターンインフォメーションセンターは令和6年度から、移住相談窓口ではなく、移住者の定着支援を主に実施している。 定着支援としては主に交流会の開催と情報発信を行っている。 ○交流会の開催については、転出者へ佐渡をなぜでることになったかというアンケートを実施したところ、「同世代の友達が見つからず、誰にも相談できないため孤独を感じた」などがあったことから、人間関係をつくるきっかけ作りができればと思い、年間20回開催している。 ○情報発信については、若者に届くようInstagram、XといったSNSを活用し、求人情報や交流会のお知らせ、暮らしのコツ等を配信している。また、ホームページは、2日に1回程度の頻度で情報を更新している。</p>
総合政策課 金子課長	<p>○民間の転職サイト活用の可能性について、現在、佐渡市では独自でコンパスという佐渡に特化したUIターン専用の求人サイトを運営し、求人情報を発信し、募集しているところ。 ○令和7年8月時点の登録事業者数は46社となっており、求職者からの8月の月間エントリー件数は13件となっている。</p>
G氏	<p>○高校卒業後、佐渡に残る生徒は約40～50名(約1割)かと思うが、残ってくれた若者への支援は行われているか。 島外からの転入者支援だけではなく、島内の若者への支援や島内の充実を並行して行った方がよいと思われる。 ○また、就職は島外でもできるが、都会で佐渡のような自然はない</p>

	<p>め、佐渡で就職しながら、自然とも共存していく佐渡独自の生き方のモデルみたいなものを佐渡に残っていただく方へ提案できたらよいと思われる。</p>
<p>総合政策課 金子課長</p>	<p>○佐渡に残って就職していただく方に何らかのインセンティブが必要という趣旨で、令和7年度予算要求時に就職応援金を検討した経過があるが、現状制度化できていないため、佐渡に残って就職いただく方への支援はない。</p> <p>○佐渡に残っていただく方への提案については、一緒にご検討させていただきたい。</p>
<p>座長</p>	<p>○事務局の説明について、続いて、「持続可能な観光地づくりを目指した佐渡版MaaS実証事業」の意見・質問を求める。</p>
<p>A氏</p>	<p>○観光旅行者の満足度が低い印象を受けたが、どのように測っているか。</p>
<p>総合政策課 金子課長 和田主事</p>	<p>○観光旅行者にウェブアンケートを実施し、集計したもの。 7段階(大変満足、満足、やや満足、どちらでもない、やや不満、不満、大変不満)の選択肢で調査しており、「大変満足」のみの割合を目標値および実績として資料に掲載している。令和6年度は41.3%が大変満足と回答しており、満足と合わせると、84.3%となる。</p>
<p>座長</p>	<p>○事務局の説明について、続いて、「元気なしまびとを起点とした魅力あるしまづくりプロジェクト」の意見・質問を求める。</p>
<p>G氏</p>	<p>○しまびと元気応援団参加数をKPIに設定されているが、数だけ追っけていてもさほど意味がなく、結果は出ないため、具体的な取組内容やどういう気持ちで実施しているか、自立して自ら考えて行動したかといった高齢者が生きいき活躍できる活動になるよう、内容重点的なKPIに変更していく方がよいと思われる。</p>
<p>総合政策課 金子課長 和田主事</p>	<p>○おっしゃるとおり、KPIは人数を追い求めても意味がないと考えており、関わる方の満足度や活動、効果等を図っていく指標として何がふさわしいかを関係課と議論しているところ。</p> <p>○来年度の総合計画策定にあたりKPIを設定する中で、活動的な指標は当然必要だと思うが、結果的にどういった効果や健康につながったかを測っていくには、例えばアンケートにより市民の満足度をきめ細かに把握していかないと、健康分野はなかなか押し上げられないと考えている。</p> <p>○また、本交付金事業の計画については、今年度で終了を迎え、来年度、新たに計画を作り直すタイミングになるため、よりよいKPIに改善しながら、計画作成を検討していきたい。</p>
<p>E氏</p>	<p>○社会福祉協議会は市から委託を受けて地域生活課題の相談支援事業を実施しているが、最近、貧困の問題を抱えて相談に訪れる方がたくさんおり、認知症の方々においては、生活が苦しい中、いつの間にか財産の管理が全くできなくなっていることが相談にきた中で発覚したこともある。</p> <p>○また、各支所単位で地域の方々と一緒に座談会を開き、地域の課題を明確にしている。 例えば、災害があった際に1人暮らしの高齢者をどのように避難させるかを話して課題を見つけ、併せて、その方へどのような支援をして</p>

	<p>いくつかという取組を各支所単位で行っている。</p> <p>○また、成年後見人の専門職の担い手が見つからない状況の中で、市民後見人の養成を行いながら、市民にご協力いただいている。</p> <p>1人で何件もお持ちになるのはなかなか難しいため、概ね1人1件担当するが、途中で辞められる方もいらっしゃるので、受ける側も受けさせようとする側もフォローアップして、1か月でも2か月でも長く維持していくことが必要。</p> <p>○相談支援事業を実施することで解決される課題もあるが、また新たな課題が次々とでてくる状況であり、そういった意味では、地域を知ることが大切で、地域にどれだけ職員が入っていく機会を作っているかが重要であり、会費徴収や赤い羽根共同募金等の事業をとおして、各種ご意見をいただければと考えている。</p>
座長	<p>○今ほどのご説明からも、KPI設定においては人数ばかりではなく、内容や課題に対しての目標もあるため、できればそれらも踏まえて指標を考えていくことで、より具体的な指標ができると思われる。</p>
座長	<p>○事務局の説明について、最後に、「安心暮らし続ける島 地域循環共生圏の創出」の意見・質問を求める。</p>
B氏	<p>○最も衝撃を受けたのが、今後も佐渡に続けたいと思う人の割合が、事業開始前(令和2年度)の78.4%からR6年度の58.3%に下落していること。</p> <p>○当社においても、島外から佐渡に採用した人が新潟オフィスを作った途端に何人かから転勤願いが出される事態が起きている。</p> <p>島の魅力を高めていくことが非常に重要だと思っているが、島に居続けてもらうための重要な3つのポイントは①仕事、②子育て・教育、③病院であり、なぜ新潟オフィスに行きたいかを聞くとその3つに行き着く。</p> <p>○①仕事は、もちろん会社として頑張っていく、魅力的な企業を誘致するなど頑張るしかないが、②子育て環境・子どもの教育と③病院が本交付金4事業の中に明確に入っていないところが、そもそも目標の立て方が少しずれている気がする。実施していることも素晴らしいことだが、SDGsより子育て環境、EV公用車カーシェアリングよりも病院存続の方が急務に感じる。</p>
総合政策課 金子課長	<p>○アンケートにおいて、住み続けたくない理由を確認したところ、医療福祉体制への不安が大きく、その他、道路やバス等のインフラが不十分、店舗や娯楽施設が不十分という意見が多かったところ。</p> <p>○令和2年度実施時と比べ、アンケート回答者の年齢構成は大きく異なるため、単純な比較はできないが、今の状況も含め医療や子育てへの不安はあると感じたところ。</p> <p>○特に医療については、本交付金4事業の中にはないが、来年度以降の計画検討の中で、健康分野も見える形で強化していかなければならないと考えている。</p>
H氏	<p>○今後も佐渡に住み続けたいと思う人の割合が減ってきており衝撃的だったが、70歳以上の方の回答割合が少なく、LINEでなかなか回答できなかったという状況かと思われるが、アンケート対象者は、各年代に配布したのか。</p>

総合政策課 金子課長	<p>○令和7年3月に佐渡市公式LINEのアンケート機能を活用して、電子アンケートにより実施した。</p> <p>年齢設定等を行わず、LINE登録者全員を対象に実施したところ、各年代バランスよく回答いただけた。</p> <p>○令和2年度は年代を抽出し、紙媒体で実施したが、その結果60歳以上の方が約6割強を占めた一方で、今回のLINEでは約3割強だったところ。回答者の年齢によって考え方が異なると思われるが、今回はこのような結果となっている。</p>
H 氏	<p>○令和2年度実施時と調査方法が異なっており、そこに問題があったと思われるため、次回調査の際は検討いただきたい。</p>
D 氏	<p>○この会議を立ち上げた時は少子化が注目されており、少子化を解決するためには子育ても重点的に行っていくという話だったが、本交付金4事業には、島民が佐渡で育って楽しめる事業が一つもなかった。</p> <p>○この島が大好きで、この島に誇りをもち、この島に絶対戻ってくると言っていて子育てが行われる状況ではなく、満足度が減少しており、子どもから佐渡に残りたくないと言われる。</p> <p>○現在、子どもの送迎ができない親がたくさん増えており、送迎用の車の配車や、子ども用施設、送迎ができる仕組みづくり等、子育てにおいて複合的に様々な事業ができると思われる。</p> <p>これは子ども若者課だけが考えることではなく、縦割り事業を超えてこれらの計画で実施してもおかしくない状況かと思うが、なぜ抜けてしまっているのか。他人事のような計画に感じており、これらもしっかりと考えた上で、総合的に計画を作成いただきたい。</p>
B 氏	<p>○佐渡市をフォローするわけではないが、これらはあくまでデジタル田園都市国家構想交付金の制度の中で対象とできる事業のみであり、他にも様々な施策を実施していると思われる。</p> <p>○典型的な活用例の方が採択されやすいと思うが、典型例から少しでも、記載の工夫により採択いただけたと思うため、皆様からの要望を反映したかたちで当該交付金の計画を作成いただきたい。</p>
総合政策課 金子課長	<p>○本交付金事業以外でも他の施策は実施しているが、本交付金計画の申請可能上限数にはまだ余裕があるため、ご意見を踏まえ、来年度は本交付金を活用し、子育てを柱にした計画の作成を検討していきたい。</p>
A 氏	<p>○デジタル田園都市国家構想交付金の中で、何を柱とするかの意思決定はどのようになされているか。</p>
総合政策課 金子課長	<p>○次年度の予算編成にあたり、政策方針の柱ごとに各課から予算要求された事業に対し本交付金を活用できないか検討し、活用できるものについては関連事業ごとに束を縛り、交付金計画に落とし込んで作成していく。</p> <p>○今年度も10月から来年度の予算要求が始まってくるが、10月から予算とセットで計画作成の議論をはじめ、年明けに向けて内閣府と調整していく。</p>
A 氏	<p>○複数の事業が関わりあってくると思われるが、ストーリーが見えてくるなら佐渡市にとって今1番何が大切なのかを考えたいので検討を行うと、よりよいアプローチもできると思われる。</p>

3.議題(2)	
発言者	議題・発言・結果等
座長	○次第3. 議題(2)について事務局から説明を求める。
総合政策課 伊豆野調査員	○資料3～5を用いて説明
座長	○事務局の説明について、意見・質問を求める。
H氏	○目的別の活用状況欄で、事業者支援項目の事業費は42,473千円、充当額は6,548千円となっており、この項目に限って事業費と充当額の差が大きい状況であるため、これについて説明いただきたい。
総合政策課 和田主事	○事業者支援項目は、「農業資材等物価高騰対策支援事業」のみが該当するが、推奨事業メニューの事業として国から交付額が示されたところ。 ○令和5年度繰越分の推奨事業メニューについては「農業資材等物価高騰対策支援事業」と「みんなの暮らし応援事業」が該当しており、交付額の大部分を「みんなの暮らし応援事業」に充当し、残りを「農業資材等物価高騰対策支援事業」に充当したことから、事業費との差が大きくなっている状況。なお、佐渡市に配分された推奨事業メニューの交付額は、余すことなく活用できている状況。
4. 閉会	
発言者	議題・発言・結果等
座長	○参加者に全体を通じた意見・質問を求める
D氏	○ふるさと納税の寄附金額の公表時期や充当先について伺いたい。 ○今年7月に子ども・子育て支援会議があり、令和6年度ふるさと納税の「子どもが元気な佐渡が島(たからじま)応援コース」への寄附金額は上位だと聞いた。 令和5年度寄附分の充当先が「子どもが元気な佐渡が島(たからじま)事業」や「保育所整備事業」等の既存事業であり残念に感じたが、ふるさと納税として既存事業に充当するのは問題ないか。 「エアコンが壊れたのになかなか直してもらえない」、「体育館が非常に暑いのにエアコンをつけない」、「調理室にエアコンをつけない」、「先生から、暑くなったため子どもを帰宅させます、迎えにきてくださいと言われる」、こういったことが起きている現状があるため、既存事業に充当することに疑問を感じており、当該コースは上位になるほど寄附が集まっているのに、何も変わっていないように感じている。 ○また、私や寄附者にしてみたら、子どもがこの島で楽しいと思えるようなこと・喜ぶようなことに使っていただけたらと思って寄附して下さると思うが、その気持ちはこういった形で反映されるのか。
総合政策課 金子課長	○公表時期は、例年10月頃に寄附いただいた方に活用実績を直接メールやお手紙でお知らせするほか、佐渡市ホームページでも公表しているところ。 ○その年にいただいた寄附金は、その年に全て活用しなくてもいいように一度基金に積み、充当先は、次年度にどの事業にいくら充当するかを各課が有効性を踏まえ判断している。なお、既存事業への充当

	<p>制限はない。</p> <p>○例えば、今後、目玉事業や新規事業はふるさと納税を財源にして実施していくことも考えられるが、具体事業を示すことで寄附していただく方からの共感が増える可能性があるため、見せ方で工夫が必要。</p> <p>○また、特定の事業や施設等で活用できるよう用途を限定して寄附を募る「クラウドファンディング型ふるさと納税」も有効な手段だと思われるが、佐渡市ではまだ実施できていないため検討していきたい。</p>
H 氏	○コース内で具体事業が示されると寄附者も意図をもって寄附しやすくなると思われる。
総合政策課 金子課長	○現状9つのコースがあり、そのいずれかを選んで寄附いただくのがふるさと納税の仕組みであるが、コース内での具体的な用途が見えにくいところはあるため検討していく。
D 氏	<p>○子どもたちへの支援が子ども若者課にもなければ、せっかく佐渡に残って頑張ってくれている子どもたちへの支援が交付金事業等にも表れてこない。</p> <p>○不登校の子どもも増えており、本日、不登校の会議があったが、様々な理由で不登校になり、困っている子どもたちがいるのに、その話をすればタブレット端末を与えられるだけの対応で、タブレット端末を与えられた子どもたちはどうしたらよいかわからない。</p> <p>○例えば充当財源として交付金とふるさと納税を併用することで様々な事業ができるのではないか。</p> <p>これだけの金額が集まれば、子どもたちへの支援や課題対応、修繕等も様々な形でアプローチでき、より子育てや子どもたちの育ちも楽しいものとなり、佐渡に残ってよかったと思う人たちが増えると思うため、これらを踏まえ真剣に考えていただきたい。</p>
総合政策課 金子課長	○承知した。
座長	○以上で、本日の会議を閉会する。